

「そのとき兄は宇宙にいた」

作 FOペレイラ宏一朗

時間は、常に一定で流れている、気がする。人生は、その上に載った音であり、台詞はすべて、歌詞として謳われる。人生讃歌、人間賛歌。

登場人物

斗真そら 妹 ギター・ボーカル

斗真けん 兄 ボーカル

児玉けん 妹の彼氏 カホン

藤原 先生 ベース

音楽はずっと鳴っている。パツハの平均律のように。

妹、マイクの前に立つ。マイク調節をする。

妹 (マイクチェックをする。その後) えーっと、まず状況から説明します。説明っていうか、台詞なんですけど。まあ歌詞みたいなものなんですけど。えーっと、私には、兄がいました。年が5つ離れた兄なんですけど、その兄は、今の地球上にはいません。あ、死んだわけではないんですけど、宇宙飛行士になって空に上がっていきました。新しい実験だかなんとかで、宇宙に出て、ずっとずっと遠くへ行って、私が死んでも、帰ってきません。なんでも、宇宙ってのは地球と流れている時間が違うそう、宇宙の果ての果てで兄が十歳年を取ったところには、私はもう七十歳を超えてるそうです。猿の惑星って映画あったじゃないですか。それで、その話をそのまま説として提唱する科学者みたいな人がいて。みたいな人っていうか、科学者なんですけど、その人が言った説を検証するために、兄は二十年間その実験をするそうです。現代の日本の医学ではそれまで生きられません。なので兄が帰ってくるころには私は生きていません。でも、その研究に参加するってことで、保険金みたいなものがうちにもらえて、母が、あ、うち母子家庭なんですけど、それもらえるからって母が兄をその研究所に売り渡したみたいなんです、だから私、なんか、私のお兄ちゃんの命って、あ、私普段兄のことお兄ちゃんと呼んでるんですけど、呼んでたんですけど、お兄ちゃんの命ってそんなもんなんでって思ったんですよ。お兄ちゃんのことっていうか、人の命？がこんなもんなんでって。なんか悲しくなって、悔しくなって、そこから母とは話していません。で、今に至ります。

彼氏 (カホンをたたきながら) ハイハイ。

妹 あ、この人は私の彼氏です。名前はけんくん。私のお兄ちゃんと同じ名前だから仲良くなって、あ、お兄ちゃんの名前は斗真けんって言います。珍しい苗字ですよ。で、私は斗真そらって言います。宇宙って書いてそらって読むらしいです。キラキラネームですよ。お兄ちゃんは普通なのに。

彼氏 そんなことないよ。いい名前だよ。

妹 けんくんはいつもポジティブシンキングです。財布を無くした時も、

彼氏 地球に募金しちゃった。

妹 犬に腕をかまれた時も、

彼氏 あれ、俺警察官の才能あるんじゃないか？

妹 足を骨折したときも、

彼氏 足なんて飾りです。偉い人にはそれがわからんのです。

妹 と、本気で言います。最後のは完全にガンダムの見すぎなんですけど、冗談じゃなく本気ってところがけんくんのいいところであり怖いところですよ。

彼氏 えー、どうも。そらちゃんの彼氏です。まあぶっちゃけ、そらちゃんのこと愛しています。一生添い遂げます。そらちゃんのい

いところは、まず見た目です。この広末涼子をオレンジジュースで割ったような顔がたまらなく好きです。で、あと性格ね。これは若干メンヘラリテイなんですけど、その辺が逆に可愛いっていうか、マジリトルアニマル系女子で、その辺がたまらなくツボなんですよね。ただ、そらちゃんはなんだかわからないけどいつも俺の向こう側を見てるっていうか、俺と接しているときも俺以外の誰かのことを考えてるって感じがして、ちょっと寂しいんですけど、その辺は俺ポジティブなんで無礼講です。

妹 けんくんは多分問題無しって言いたかったんですけど、あえてその言い間違いを私は指摘しません。けんくんの向こう側にお兄ちゃんを見ているのは確かなんですけど、でも、それを除いても私はけんくんのことが好きです。たまに意味のわからない日本語を使ってくるところは一緒にいて少し恥ずかしいけど、それでも私はけんくんのことが好きです。けんくんとは高校一年のときに同じクラスになったことから知り合いました。全然お兄ちゃんに似てないなって思ったんですけど、それでも気づいたら好きになって、好きになってっていうか、目で追っかけて、で、ああ、これが恋かって思いました。そして今私は、けんくんと一緒に部活に入って、だからと毎日を過ごしています。お金があるので、こんなならだらとした生活を続けたいられるんだらうなって、きちんと心のどこかでは思っています。お兄ちゃんの生活がすべてデータ化される日々の、その、反対側ともいえない、どこでもないこの高校の教室の隅で、だからと、ぼーっと思っています。

彼氏 まあぶっちゃけ、俺もそらちゃんが俺じゃなくお兄ちゃんのことを考えてるのは頭の切れ端で気づいて、でもそれでも俺はそらちゃんのことを大好きで、つーかマジで愛して、これはゆるぎねえ事実で、なんかその愛のかたちを歌にしました。それでは聞いてください。俺で、「そらちゃんがいつばい、」

妹 けんくんはいつも私に歌を作ってくれました。そのほとんどはパンポプキンのパクリみたいなものばかりでコメントに困ったんですけどその気持ちは嬉しかったです。お兄ちゃんが飛び立ってから、私の心は何か欠けたみたいで、それを音楽がずつと埋めてくれました。たとえそれがパンポプのパクリでも、私には鳴り止まないでいてくれるという事実だけでも本当にうれしかったです。

彼氏 そらーちゃん、だいすーきだ。そらちゃんがー泣いてちゃしょーがない。

妹 いつからか私のためにけんくんが作ってくれた歌は三百六十五トラックにまでなりましたが、その数の多さが私への愛の形であると思えてきました。

兄 えー、どうも。みなさんこんにちは。兄です。斗真けんと言います。えー、先ほど太陽系の銀河を超えてイスカandalへと向かうルートに入りました。そこからさらにアンドロメダ星雲をすり抜け、遠くに見える、小さな小さな太陽と記念撮影をして、またいくつもの銀河を超えていきます。地球とはずいぶん前に記念撮影をしました。昔、ガガーリンさんは地球は青かった、と言っていました。僕からすると、地球よりも、地球から見た空の方が青かったかな。って感じですよ。いや、奇をてらつて言っているわけじゃあないんですけど、本当に。空が青から赤くなり黒くなり、また空が青くなることの美しさは、変わらない青さに比べたら、ずつとずつと、美しかったです。

間。

妹 兄が飛び立ってから、一年の時間が流れました。

彼氏 かーなーらーずー、ぼくらーはでーあうだろー。

妹 私たちは、部活が終わると通学路から少し離れたカラオケボックスに通います。二人つきりで、肩を寄せ合いながら。ファーストキスは先週ここですませました。けんくんもこんな見た目ながらファーストキスはまだだったようで、二人とも上手くできなくて、思いつきり鼻と鼻がぶつかりました。けんくんは、

彼氏 俺、鼻高すぎたからちよいどいいぜ。

妹 と言っていました。このときばかりはそれはポジティブとは少し違うんじゃないかって思いました。でも、少し涙目になりながらも強がるけんくんが、なんだか愛おしいっていうか、なんかきゅんつてなりました。まあ二回目から舌を入れてこようとしたときは思いつきりピンタしたんですけどね。好きだよ、けんくん。

どこからともなく先生が現れる。

先生 えー、どうも。先生です。

にこやかな時間。

先生 いいですかみなさん。地球、というのですね、青いです。かの有名な宇宙飛行士であるガガーリン船長が言った言葉ですねいやじつにいい言葉です。ですがこれは原文のままではなく、ガガーリン船長本人が言った言葉は「地球は優しく光る淡い水色だった」です。もちろん日本語に訳すとですよ。

妹 はい、先生。

先生 はい、斗真さん。

妹 地球はどうして青かったんですか。

先生 いい質問ですね。先ほどのガガーリン船長の言葉に淡い水色とありますが、つまり、海の色のことを指しているのではないかとされています。

妹 そうですか。

先生 でもですね、先生思うんです。ガガーリン船長が言いたかったことは、地球の空の色のことなんじゃないかって。地球を包む大気のベールが、どれだけ離れても優しく青色に存在していることに感動したんじゃないかって。

妹 ……

先生 はい。では今日の授業はここまでにします。みなさん、最近学生の帰りが遅いってPTAから問い合わせをいただくことが多いです。部活もあると思いますけど、空が暗くなる前に、家に帰りましょうね。起立。

妹 ありがとうございます。

彼氏 涙の理由を知ってるか。俺はマジでわかりやしないが。

妹 今私はけんくんとホテルにいます。備え付けのカラオケでけんくんはダンデライオンのヒップホップカバーを歌っています。なくずしてきにホテルに入ったのはこれで三度目で、私はそれがいけないことと知りつつも、ついつい一緒に来てしまうのです。

彼氏 バンプオブキーンって言うのは日本のJロッカーで、これまでも多数の名曲を作っている俺たち高校生のヒーロー的な存在です。俺は自信がないときとか恋に悩むときは必ずバンプを聞くし、歌います。ただ聞き、歌いすぎた影響で自作の曲は全部バンプっぽくなってしまう。彼女のそらちゃんと、俺はさつき三度目ぐらいの不純異性交遊におよんだわけなのですが、俺はそういう経験がまったくなかったので凄く自信がなくて今バンプの曲を歌っています。でもさすがに彼女の前でバンプを歌いすぎてる気がするので今は変わり種としてヒップホップカバーを歌っています。

妹 なんで普通のバンプ歌わないの？

間。

彼氏 そらちゃん。

妹 ん？

彼氏 あのさそらちゃん。

妹 なに？

彼氏 俺たちさ、このまま高校卒業してさ、そのあとどうする？

妹 どうするって？

彼氏 する？結婚。

妹 えー・・・わかんない。

彼氏 ……だよー……。

妹 そのときは、どうかしてたって言うか、ぶっちゃけ結婚なんて全然意識できていなくて、っていうかうち母子家庭なんですけど、私が結構小さいときから離婚していて、だから結婚しているって状態のことあんまり知らなくて、だからつい、そういう意味で、わかんないって言いました。

音楽が少し変調する。

妹 兄が飛び立ってから、一年と七ヶ月の時間が流れました。

先生 先生です。今日のニュースは見られましたか。とても素晴らしいことに、斗真そらさんのお兄さんが、先ほど、アンドロメダ銀河を超え、あつという間に彗星銀河まで達したことがわかりました。これは地球人初の快挙であると共に、我々人類のこれからの希望であります。そらさん。いいお兄さんをお持ちですね。

妹 いえ……。

先生 まだこの地球からは、うつすらとM31の辺りを飛んでいる姿が見られるとかなんです。明日の朝までなら天体望遠鏡を使えば見れるかもしれませんが、みなさんも試してみてください。では授業をはじめます。

兄 ホント、地球からはずいぶんと離れました。誰しも思うことではありますが、僕が適合者として選ばれたのは、運が良かったから。でもその幸運を今体験できている僕は、本当にラッキーなやつで。ただ一つ心残りなのは、もう妹に会えないかもしれないってこと。たった一人、血を分けた兄弟ですから、少なくとも僕はそう思っています。僕は実験のためのパイロットですから、もちろん最後までやりとげるべきことはやりとげます。でも、心のどこかで、この宇宙と、地球の流れる時間が同じであればいいのって思っています。

彼氏 俺も、本当はわかってたんです。そらが、俺のことを彼氏として見てくれていないんだって。結局お兄さんの代わり程度にか見てくれてないんだって。俺はそれでもよかったですし、そんな中でも彼女のことを愛していたつもりでした。なんて言うんですかねこういう気持ち。わけわかめなんですけど。あのホテルの日以来、俺はそらとともにラインもしていません。なんて声をかけるのか、なんて言ってる彼女を誘っていたのかわからなくなって、まあラインなんて過去のログとかもあるんですけど、でもそれを見ても全然思い出せなくて、気持ち悪くて、それで、送ることができていません。

妹 送ることができていません。私はあの日からけんくんに対して、ちゃんと伝えたいことを。あの日言ってくれたこと、嬉しかったよ。けど戸惑っちゃった。ごめんね。って、入力はしているのに、ずっとずっと、送信を押すことができていません。最後の二人のやりとりは、「どこ？」というけんくんからのメッセージに対して、「音楽室」とだけ送った言葉でした。

兄 どうも兄です。あつという間でした。予定よりもずいぶん早くアンドロメダを抜けることができ、調子に乗った僕はさらに二つ三つと銀河を超え、彗星銀河へとたどり着きました。ここからはもう地球を見ることができません。ただ、地球がある場所はないとなくわかります。ずいぶんと遠いところまできました。今日本は何時頃だろうか。そらは、妹は元気に学校に通っているのだろうか。もしこの実験の結果、地球と宇宙の時間の差がなかったとしても二十年。僕は妹の成人式も、ひよつとしたら結婚式も見ることができないのかもしれない。それでいいのだろうか。

無音。

兄 ……宇宙は孤独だ。誰もいないし、何もない。あるのはただの光り輝く星ばかりで。ずっと夜の中にいるようだった。父親は、僕とそらがまだ小さい頃、外に女を作って出て行った。それからの母さんは、お金を稼ぐことに必死になり、毎日毎日年を取っていくようだった。夜の、僕たちが学校から帰って寝る時間までだけ家において、そこからまた夜の仕事をしに行っていた。母さんが鍵を閉めたドアを僕はずっと見ていた。その時間がたまらなくいやだった。夜は嫌だった。空が見たい。今から引き返せば、まだ間に合うんじゃないだろうか。

間。

兄 いやだめだ。僕は、もっともつと先の宇宙まで行き、これからの人類の、希望にならなければ。

妹 兄が飛び立ってから、二年の時間が流れました。

彼氏 そらから久しぶりにラインが来た。「ねえ私たち付き合ってるんだよね？」俺はなんでこんなものを送られてきたのか、意図が全くわからなくて、見てみないふりをしました。既読を付けずに、通知のところから見たので、そらはまだ俺が見たとは気づいていないはずですよ。自分の気持ちで理解できてから返信しようと思います。

先生 みなさん、そらさんのお兄さんがついに、人類初の快挙を成し遂げられました。まだ無人探査機などでしか到達してこなかった宙域に入られたそうです。それも単身で。これはとても凄いことですよ。みなさんも、この地球からそらさんのお兄さんの無事と成果をお祝いしましょう。では今日の授業をはじめますね。

彼氏 そらから追撃のラインが来ました。まだ既読を付けていないのに、もの十分で。「別れたいの？」と一言。だからまだ悩んでるところだから。と、少しカッとなつてしまい、うっかり既読を付けてしまいました。ちなみに、ラインの既読機能というのは安否確認を目的として実装されたそうです。安全ではあるのですが、俺としてはその機能のせいでピンチのようによくわからない局面に立たされています。

妹 けんくんから「別れたくは、ない。」とだけ返事がきました。「別れたくは、」「たくは、」「は、」って何？それ以外のことがあるっていうことでしょうか。わけわかんない。

彼氏 そらからスタンプの応酬です。止まりません。僕のラインのアイコンのカウントがどんどん上がっていきます。たまにスタンプとスタンプの間に「今どこ？」とか「出て。」とかが散りばめられているのが通知で見取れます。

ラインの通知音が連続で鳴る。

彼氏 俺はゆっくと、アイフォンの電源を切りました。

妹 それからけんくんは、学校に来なくなりました。次の日から。そでどんどん日は加速して、卒業式前日。

先生 先生です。みなさん、明日からいよいよ、みなさんにとつての最後の春休みですね。遊ぶことも大事ですが、みなさんそれぞれ次の進路への準備も多いでしょう、くれぐれも、どれもほどほどに。人生において、そういう、余力を残しながら生きていく、ということが先生、大事だと思っています。

妹 先生。

先生 はい斗真さん。

妹 あの、宇宙ってどれぐらい広いんですか？

先生 ……どうして？

妹 えっと、最後に聞いておきたい。

先生 そうですね・・・先生現国が担当なので詳しくはわからないんですけど、うんと。ですかね。たくさん、とても、そして今も大きくなつて聞きました。

妹 今も？

先生 はい。今もです。

妹 じゃあ、最後までたどり着くってことはないんですか？

先生 ごめんなさい、先生そこまではわかりません。自分で調べてみるともつと勉強になりますよ。

妹 ……。

先生 はい、じゃあ今日はここまで。起立！先生、みなさんと出会えて本当に良かったです。今までありがとう！

兄 兄です。もうすっかりアンドロメダも見えなくなり、もうこの辺りは、誰も足を踏み入れたことがない宙域です。人類初のことですね。この通信を聞いているみなさんは、きっと喜んでくれているのですが、でもリアルタイムで共に分かち合える人がいなくて、僕は寂しいです。そういうえば、僕がこのパイロットに選ばれたとき、母は大変喜んでくれました。父がいなくなつてから母の笑顔なんて見ていなかったもので、それを見ただけでも僕はパイロットになつてよかったなと思います。ただ、

妹は、少し、複雑な顔をしてました。

妹
お兄ちゃん。

兄 本当は、気づいていたんです。自分自身がモルモットだなんてことは。知ってて宇宙に来たんです。なんてのは、都合のいい聞き直りでしょうか。妹は少なくとも気づいてて、でも浮かれてる僕の顔を見て、何も言えなかったんでしょうね。ただ一人僕のこと心配してくれていた妹、に会いたいです。でも会えないんですよ。なんでこんなとこまで来ちゃったかな。どこだろうか、ここは。もう自分がいる場所さえわからなくなってきた。見渡す限り、真っ暗で。星の輝きだって、わからなくて。

間。

妹
お兄ちゃん。

兄 宇宙の果てについて、地球から見えないってことは、何もない空間だからって、昔の天文学者が言ってたそうです。そんな場所に来ています。確かに、ざっと見てみると、何もない空間なんですよね。悔しいですよ、今になって。あのときどうして僕は、こんな場所に憧れたんだろうって。大事なのは、家族、妹のそばにいて、こんな場所なんかじゃなかったらうにって。

妹
お兄ちゃん。

兄 あー・・・笑えてくるなあ・・・。結局僕は逃げ出したかったのかもしれない。母から、それから。誰かのために生きることから。父親とやることが一緒なんですよね。遺産かなあ。悔しいなあ。逃げ出したくって、結局、こんなところだもんなあ。こんな景色が見たくて、僕は、僕はパイロットになっただもんなあ。

兄、通信の電源を切る。

兄 帰りたくなくなっちゃうよ、地球には。

妹
お兄ちゃん！！

間。

妹 ・・・・わかんないよ。全部。宇宙とか、愛だとか。結局私一人置いてかれて。わかんないよ。お兄ちゃんもけんくんもみんな私のこと置いて行って。わかんないよ。宇宙とか愛だとかふざけんなよ。わかんないよ。結局私一人置いてかれて。わかんないよ。わかるわけないよ。だって私一人だもん。わかんないよ。私何もかも。わかんないよ。嫌になるよ。なんだよそらって。キラキラネームじゃん。わかんないよ。宇宙とか愛だとか。わかんないよ。わかんないよ。わかんないよ。何もかも何でかも恋だかも愛だかも！！！！！！！！

間。

妹 お兄ちゃんからの通信が途絶えたのは私が高校を卒業し一年目の夏の終わりでした。理由はわからず、そういう調査機関、みたいなどころはおそらく機材の不調だろうと私たちにメールで伝えてきました。大学に進学した私は、文系で、大した勉強をすることなく、またダラダラとした日々を過ごしています。ただ、やっぱりお兄ちゃんの通信が途絶えたってことは気になって。私のアイポッドにはお兄ちゃんからの通信を音声ファイルとして保存したものと、けんくんの自作の歌を録音したものが入っていました。でも、高校を卒業したあの日、けんくんの歌は全部消して、お兄ちゃんの通信だけが入っていました。でも、多分これがこれから更新されていくことはないと思います。たった一人、血を分けた兄弟ですからわかるんです、とかじゃなくて、女の勘ってやつですかね。高校を卒業する時には、宇宙について詳しくなってお兄ちゃんにいつか追いつこうか思ってたんですけど、なんでよくわかんない文学の勉強とかしてたんだろ私。

間。

妹 ぼうっとした時間の中で、耳の端にどこかで聞いた覚えのある音楽が鳴っていました。音を辿って行くと、そこには……。

彼氏、カホンを叩いている。

彼氏 ヘイヘイ。

妹 ……何してんの。

彼氏 ストリートミュージシャン。

妹 何で。

彼氏 いや、ほら、俺、ミュージシャンになりたかったじゃん。だから。

妹 そういうことじゃなくて。

彼氏 何ていうか、こういうことしてたいつかそらちゃんと会えるんじゃないかなって。

妹 自分から連絡辞めたんじゃない。

彼氏 うん。だから、待ってたんだよね。奇跡みたいなのあるかなって。

妹 そりゃ街中にいたらいつか出会うんじゃない。奇跡安すぎるよ。

彼氏 今何やってんの？

妹 ……大学生。

彼氏 へえ。

妹 なに。

彼氏 大学出たら結婚しようよ。

妹 はあ？

彼氏 いや、ちゃんと働くよ？俺。

妹 何言ってるの。

彼氏 音楽も続けるけど、二人で食べれる分稼ぐからさ。

妹 簡単に言わないでよ……。

彼氏 わかんないよ。そりゃあ俺じゃあそらちゃんのお兄さんの代わりは無理かもしれないけど。でも、俺は俺なりに頑張るよ。も

うパンプのバクリみたいな歌も歌わない。そらちゃんが大学卒業するまでに貯金貯めてみせるからさ。

妹 中卒じゃん。。。

彼氏 ……(カホンを叩きながら)ヘイヘイ。

妹 へいへいじゃなくて。

彼氏 高卒認定試験受けて、昨日無事に取れたんだよね、資格。

妹 ……うそ。

彼氏 マジ。

妹 そんなことするなら高校ちゃんに行けばよかったじゃん。一緒の大学とかだって行けたじゃん。馬鹿じゃないの。

彼氏 なんか、逃げ出したときってあるじゃん。思春期の。俺のあれはいわゆるそれ。

妹 あいまいな表現が多すぎるよ。

彼氏 でも俺戻ってきたからさ、もう逃げないから。

間。

妹 本当に？

彼氏 本当。

妹 ラインの返事もちゃんとしてくれる？

彼氏 する。

妹 私、ちよつとメンヘラ入ってるけど大丈夫？

彼氏 むしろ大好き。

妹 私実は自活能力全然ないけど大丈夫？

彼氏 俺今一人暮らししてるから余裕。

妹 けんくんの自作の歌全部アイポッドから消しちゃったけど大丈夫？

彼氏 全然大丈夫。

妹 ……ポジティブシンキング全然変わってないじゃん……。

間。

妹 でも、またバクリでもなんでもいいから、歌って欲しいかな。

彼氏 ……おつけー。かーなーらーずー、ぼくらーはでーあうだろー。

妹 けんくんは、そのあと人目もはばからず、私のために、バンプのバクリみたいな歌を大きな声で歌ってくれました。バクリっていうか、もはやバンプの曲そのものだったんですけど、でもその歌がすごく懐かしくて、私は、人目もはばからず、泣いて笑ってしまいました。この曲と、お兄ちゃんの通信は、絶対に消さないでおこうと、私は決めました。いつまでも音楽が私の心にあるように、鳴り止まないでいてくれることを信じて、忘れないためにも、残しておこうと思います。そして、またいつか、けんくんが正式にプロポーズしてくれるその日に、最後にお兄ちゃんの通信を聞こうと思います。

間。

兄 えーどうも、兄です。僕が通信を絶つてから、ずいぶんと長い時間が流れました。機材トラブルとかじゃありません、僕の勝手な行動でした。すいません。また僕は逃げ出してしまったわけです。地球ではどのくらい時間が流れたのかはわかりませんが、みなさんお元気ですか？僕は、まあ、ご覧のとおりです。ご迷惑をおかけしてもうしわけありませんでした。ようやく、折り返し地点に到達したので、運行記録はまたデータで送ります。じゃあ、今から地球に戻る準備をします。ここからの距離だと、どれぐらいの時間この通信がそっちに着くのかかわりません。そっちも変わったことがたくさんあります。妹といますけど、僕の中でも変わったことがありました。どうか無事、またみなさんと直接お会いしたいなと思っています。妹と母へ。仲良く暮らしていますか。そっちの状況はあまりわかりませんが、もし心配をかけていたらすいません。宇宙は、とても、とても大きかったです。それだけでは言い表せませんが、またその辺は直接会えたらゆっくり話したいです。じゃあ、また逢う日まで。さようなら。

幕。

【上演に関して】

- ※ 上演を希望される場合はその旨を「プロトシアトル」までご連絡ください。
- ※ 台詞の変更・追加・削除などは基本的に自由に行っていただいても構いません。
- ※ 稽古場やワークショップでの使用はご連絡不要です。（でもご一報いただけると喜びます…。）

【連絡先】

プロトシアトル

e-mail: prototheater@gmail.com